

【教育長賞】私が考える給食のみ力

丈山小学校 横山 和香

私は、二才の頃から給食を食べています。今年でちょうど十年目です。こんなに長い期間食べているのに、私は全くあきていません。こんなに食べてもあきない給食って、すごいと思います。

そんなすごい給食のみ力について、考えてみたいと思います。

まず始めに、給食のいいところについて考えてみました。

一つ目のいいところは、たくさんのお食材が使われており、年れいに合わせて細かく栄養バランスを考えられていることです。私は今、身長が百六十センチメートルありますが、ここまで成長できたのも、「給食のおかげ」と言ってもいいのではないかと、思えるほどです。

二つ目は、いろいろなメニューがあることです。例えば、主食だけでもラーメンや焼きそば、米粉パン、中か飯やカレーなど豊富にあり、その事は、長い期間食べても給食にあきない最大の理由になっているのではないかと考えます。ちなみに、私の一おしはビビンバです。

三つ目は、イチジクやチンゲンサイなど、地元のお物を使っていることです。私は、地元の特産物についてあまり知りませんが、給食をとおして、何が地元の特産物なのか知ることができました。

四つ目のいいところは、七夕汁やちらしずし、赤

飯など、季節や行事に合わせたメニューがあるところです。私は特に、お楽しみメニューのケーキやゼリーがうれしかったです。

このように、いいところがたくさんある給食ですが時にはよくないと思うこともあります。人によっては、給食にはきらいな食べ物が多くまるといいうことです。私はアスパラガスが苦手なのですが、残さず食べたいと思っていてるので、がんばって食べていました。苦手な物がたくさんある人や少食な人もいると思いますが、始めに少な目に配せんするなどの工夫をし、残飯が少なくなるとSDGsのためにもいいと思いました。

毎日食べている給食ですが、私のところに配ぜんされるまでにどれだけの人があらずさわっているのか、改めて考えてみました。お米や小麦、野菜などを作る農家の人、魚をとる漁師の人、肉や卵を育て続け、調達してくれるらく農を営む人、栄養士さん、調理をしてくれる人など、少し考えただけでもたくさんいると分かりました。私はまだ、あと三年以上給食を食べる予定です。今はコロナかで、給食はもく食と言われていて少しさみしいですが、これから感謝の気持ちを持ちながら、給食を楽しんで、おいしくいただきたいなと思います。